

第 3 期 中 長 期 計 画

(2025年度から2029年度まで)

学校法人富澤学園

2024年12月

目 次

1	第3期中長期計画の策定経緯	1
2	学園の使命（ミッション）	
3	ミッション実現のための重点目標（ビジョン）	
4	第3期中長期計画の推進体制	2
5	各校園及び法人本部の計画	
	(1)東北文教大学・東北文教大学短期大学部	3
	(2)東北文教大学山形城北高等学校	5
	(3)東北文教大学附属幼稚園	6
	(4)法人本部	8
6	経営に関する計画	9
	(1)業務運営の改善	
	(2)財務内容の改善	
7	キャンパス環境の整備に関する計画	10
	(1)東北文教大学・東北文教大学短期大学部	
	(2)東北文教大学山形城北高等学校	
	(3)東北文教大学附属幼稚園	
8	評価指標の設定	11
	(1)東北文教大学・東北文教大学短期大学部	
	(2)東北文教大学山形城北高等学校	
	(3)東北文教大学附属幼稚園	
	(4)法人本部	
9	評価指標	別紙

1 第3期中長期計画の策定経緯

学校法人富澤学園は、これまで、第1期中長期計画（2018年9月策定）及び第2期中長期計画（2020年度策定）に基づき、県内唯一の総合学園としてのブランドを確立すること、保護者、学生・生徒から選ばれる学校となること、学校法人が末永く存続するため財務基盤を安定化させることを目標に、取組を行ってきた。

今後は、学齢期人口の減少が一段と進み、学園を取り巻く環境がますます厳しさを増すと予想される。このような状況の中で、これからも富澤学園が社会の負託に応え、より良質な教育を提供し、安定的な学校経営を実現することを目指して第3期中長期計画を取りまとめた。

これからは、東北文教大学・東北文教大学短期大学部、東北文教大学山形城北高等学校、東北文教大学附属幼稚園及び法人本部が一丸となり、この計画を全教職員で共有し、計画実現に向けて取り組む。

2 学園の使命（ミッション）

これまでの中長期計画と同様に、「敬・愛・信」の建学の精神を原点に据えて、今後も使命感を持ってこれを受け継ぎ、学園を運営していく。

3 ミッション実現のための重点目標（ビジョン）

(1)教育力の向上

山形の地で、幼稚園教育、高等学校教育及び大学教育をこれまで以上に相互に連携して実施する。各校園は、伝統の中で培われた特色を基礎に、時代の要請に応えながら、更に魅力ある学校となるための取り組みを進める。県内唯一の総合学園として校園間の連携と接続性を高めながら、教育力の向上と研究に取り組む。

(2)地域への貢献

学園は、100年に及ぶ歴史の中で、地域との関わりを強く持ちながら、有意な人材の育成を通して地域の発展に貢献してきた。これからも卒業生や同窓会組織等との強力な連携をもとに、地域との一体感を強め、地域における存在意義を確実なものにする。

(3)組織ガバナンスの強化

適正で効率的な管理運営を行うため、理事会と評議員会を中心としたガバナンス体制を確実なものにするとともに、理事長及び各所属長のリーダーシップにより、各校園及び法人本部が社会環境の変化に対応できる機動性と柔軟性のあるマネジメントを推進する。学園全体の組織力強化に向けて、各校園と法人本部間のコミュニケーションと各校園間の協力体制を強化する。また、監査機能を充実させるとともに、業務の効率化と教職員の能力向上、適切な予算管理と執行、コンプライアンスを高めるための取り組みなどを行う。

(4)経営基盤の強化

大学・短期大学部、高等学校及び幼稚園における入学定員及び収容定員の適正化を図るとともに、定員の充足を目指す。収入面では、学納金の確保、補助金の獲得等に、支出面では、効率的で効果的な予算編成と執行、管理経費の節減等に取り組む。収支バランスの取れた予算編成と執行を行い、経営基盤を強化する。

4 第3期中長期計画の推進体制

(1)第3期中長期計画を達成するため、計画期間における年度ごとに、取組の実績を点検・評価する。このため、取組みの達成状況を把握するための評価指標を設定し、PDCA サイクルの視点に基づき、毎年度の事業計画と事業報告の作成を連動させながら達成状況を点検する。

学園全体では、理事長のリーダーシップのもとでガバナンス体制を構築し、計画全体の進捗状況の管理を理事会が統括して行う。計画期間中における進捗状況は、評議員会に毎年度報告する。また、監事監査及び内部監査の指摘・提言事項をタイムリーに事業活動に反映させる。

(2)各校園及び法人本部は、年度ごとの取組の実績を点検評価し、未達となった評価項目については、分析に基づいて対応策を策定し、翌年度の事業計画に反映させる。

・大学・短期大学部は、大学評議委員会の下部組織である将来構想小委員会が主体となって、各部署からの自己点検・評価報告シートを基に、取り組み内容と実績の進捗管理を行う。

・高等学校は、中長期計画の進捗管理は、各分掌の長と管理職により構成される総務委員会が取り組む。実行計画を各部署が担うだけでなく、自己点検シートを作成し、全教職員の参加を促し、課題が見つかった場合には、総務委員会が省察し、改善方向を促し、翌年度中に必ず改善に取り組む。

・幼稚園は、園運営のために組織している既設の附属幼稚園評議委員会を中心に、計画実行の機動性を担保するために関係職員を加えた新たな組織を設置して、計画を推進、管理する。

・法人本部は、課長会議が主体となって、中長期計画の達成に向けた取り組みを行い、各校園と連携を取りながら達成目標や評価指標の達成状況の把握と管理を行う。

5 各校園及び法人本部の計画

(1) 東北文教大学・東北文教大学短期大学部

ア 学校経営・マネジメント

「人を学ぶ、地域を創る」大学として、主にダイバーシティへの対応力やインクルーシブな教育力に優れた人材の育成に重点的に取り組む。大学を取り巻く厳しい状況に対応し、学科や部門の経営上の課題について徹底的に改善策の分析と検討を行い、大学経営の礎になる健全経営を目指して取組を進める。また、コンパクトな組織形態で柔軟にマネジメントすることができるよう早急に大学改革を推進する。

イ 教育力・研究力

従前からの本学の実績を踏まえ、「人を学ぶ、地域を創る」大学として、地域に応え地域を支える人材を養成するため、教育目標としてインクルーシブ教育力とダイバーシティ対応力、さらに多様で複合的な課題に対応できる課題解決力の育成を目指し、それに資する教育課程の改革を推進する。

一方、教育課程を維持・発展させるため、各教員は自らが係る教育課程に資する研究業績を上げる。さらに、地域からの課題解決の要請に積極的に応えるため、教員個々の専門性を積極的に可視化するとともに、チームで対応するシステムを構築する。

ウ 個性的で特色ある大学づくり

(ア) どこよりもあたたかい教育の実現

教育目標である「学生一人ひとりの顔が見える教育」の保証のもとに、多様な学生の学びのニーズに応え、どこよりもあたたかい教育を実現していく。

(イ) 地域を支える人材を育成

多様で複合的な課題に対応できる課題解決力を育み、地域の課題に応え、地域を支えることができる人材を育成する。

(ウ) 日本語教育の充実

外国人材の受け入れ拡大、国際化への対応を掲げる、山形県および山形市の政策をふまえ、本学の留学生別科の教育課程の柔軟な活用を行い、日本語教育の需要に積極的に対応していく。

(エ) 社会人のリスキリングの支援

これまでの生活を続けながら、新たな学びに挑戦しようとする社会人の需要をふまえ、介護福祉士資格の取得等のリスキリングを支援する体制を充実させる。

エ 学生支援

(ア) 学修支援

今後、入学者の割合が学校推薦選抜型と総合型選抜型が増加する状況（現在、大学 70%強、短大ほぼ 100%）を踏まえ、教育の質を保証しつつ、学修達成度に格差が出ないように、IR等を活用し、学生一人ひとりの顔が見える支援に取り組む。

(イ) 学生サービス

学生生活を楽しくかつ安心して過ごすことができるように、学生の課外活動への支援、学生の心身に関する健康チェックとすみやかな心的支援、また経済的支援のため「高等教育の修学支援新制度」の対象校としての要件を維持するとともに、本学独自の経済的に緊急を要する奨学生制度の充実に取り組む

オ 進路支援

入学者全員が目指す進路を叶え、さらに進路先で実力を十分に発揮できるように、進路支援センターが掲げる「学生の自立を促す進路支援」の方針のもと、進路支援センターと各学科、各課、各センターが連携し、進路ガイダンスや個別相談、各種セミナー（模擬面接会）、勉強会などを通して、学生一人ひとりに寄り添ったきめ細やかな支援を行い、2020年度から2024年度までの平均実績以上の就職率を維持する。また、進学、編入学志望者の志望達成を支援する。

カ 地域連携

地域と課題を共有するためのコミュニケーションを広げ、本学の教育・研究活動を地域の社会課題解決に活かせるよう、積極的に連携を推進する。とりわけ自治体等との対話と連携を進める。

キ 校間連携

(ア) 東北文教大学附属幼稚園との連携

東北文教大学附属幼稚園での実習等を通して、密に連携を図りながら高度な知識と実践力を備えた保育者の養成を行う。また、大学の研究成果を、幼稚園の課外授業等を通して幼稚園に還元していく。

(イ) 東北文教大学山形城北高等学校との連携

東北文教大学山形城北高等学校と密に連携を図りながら、高校生およびその保護者から選ばれる大学づくりを行う。そして、高等学校内で開催する学校説明会等を通して、大学の特徴等をしっかりと伝え、目的を持った進学者を確保する。

ク 学生募集・獲得

近年、大学、短期大学部ともに志願者数が減少傾向にあるため、地域が求める人材像、高校生が求める大学及び教育内容などを丁寧に把握し、志願者数増加と入学者獲得のための対策を講じる。当面は、広報内容と体制の見直しを行い、本学が取り組んできた人材育成や地域貢献等に関する実績のアピールを通じて社会的評価を高め、地元からの志願者と入学者の増加につなげる。

(2) 東北文教大学山形城北高等学校

ア 学校経営・マネジメント

『教育理念・教育方針』に基づき、重点目標である「ICTを活用した個別最適な学びの提供」と社会とつながる協働的な学びの実現」を達成する。生徒及び保護者による学校評価より、全項目で80%以上の高い評価を得られるよう学校改革を推進する。

イ 特色ある学校づくり

(ア) 普通科3コース及び特進科の充実

学習アプリの活用による基礎学力の定着を図り、幅広い学習ニーズに対応した柔軟な教育を展開するとともに教育課程の見直しや新コースの検討も行う。

(イ) ICTを活用した授業改善

ICT教育推進委員会を中心に公開授業等で得た課題、授業アンケート結果をもとに、本校の生徒に応じた授業を研究しあえる環境をつくり、教育力の向上を目指す。

(ウ) 「総合的な探求の時間」の積極的取組

東北文教大学、東北芸術工科大学企画構想学科の支援を受け、ふるさとを愛し、将来地域や社会に貢献しようとする態度を養うことを目標にしながら、社会とつながる協働的な学びを実践する。

(エ) 部活動及び特別活動の推進と校外活動の奨励

部活動については、どの部も熱心に活動し実績を挙げており、更なるレベルアップを目指す。学校行事や生徒会活動、ボランティア活動では、積極的な参加を促し、生徒の自主性や自己肯定力を向上させる。

(オ) 国際理解教育の推進

韓国正義女子高校との交流、台湾への海外修学旅行等を通し、グローバル・マインドや実践的なコミュニケーション能力などを育むコンピテンシーの育成を目指す。

(カ) 学校不適應生徒への対応

多様な生徒への教育支援を充実させる。教員の特別支援教育に対する理解促進のための校内研修等を充実させる。

ウ 生徒支援

(ア) 生徒指導の充実

校則等を見直し、生活指導に対する教員間の共通理解を徹底する。いじめ・体罰については、日頃の観察及びアンケート等により実態の把握に努め、迅速かつ適正に対応する。

(イ) 生活環境の充実・整備

校舎の美化に努めるとともに、施設設備の保全と学校設備・備品の老朽化に伴う改修・更新を行う。

(ウ) 進路指導の充実

本校のキャリア教育計画に基づき、実践的なキャリア教育を充実させる。特に総合型入試に関する教員研修を行うとともに、指定校推薦枠の確保など各大学との連携をより進める。

エ 校園間連携

(ア) 東北文教大学付属幼稚園との連携

進路決定前に幼稚園実習等を体験させ、体験幼児教育等への理解を深めさせ、明確な意思を持って進路選択ができるための取り組みを実施する。

(イ) 東北文教大学・東北文教大学短期大学部との連携

東北文教大学・東北文教大学短期大学部より教員を招いての学校説明会の実施や、「総合的な探求の時間」の充実を図る。また、目的を持った東北文教大学への進学者を育成する。

オ 生徒募集・獲得

本校教員が県内の中学校を訪問し、本校の魅力や中学生参加の行事等を発信する。またオープンスクールや部活動体験、学校説明会等で本校の魅力を紹介する機会を多く設け、参加者が本校に対して興味や魅力を感じる場面を多く作り出す。

(3) 東北文教大学付属幼稚園

ア 幼稚園経営・マネジメント

教育目標「健康で意欲あふれる心豊かな子ども」の実現に向けて、「夢中になって遊ぶ子ども育成」を重点目標として達成をめざす。また、今後の少子化の進行に備えて年齢別園児数の再構築を図り、適切な業務内容と人員配置の検討を行うなど、健全経営に向けた取り組みを早急に行う。

イ 特色ある幼稚園づくり

(ア) 夢中になって遊ぶことができる園庭環境の整備と充実

自然あふれる環境のもと、園児が主体的にのびのびと好きな遊びに夢中になって遊ぶことができるよう、園庭環境の改善、整備を行う。

(イ) 質の高い保育を実現する研修の充実

人材の育成、保育の質を強化していくため、研修計画を立て、職員それぞれに合わせて、資質向上を図る。

(ウ) 自園給食を中心とする「食育」の推進

自園給食により、豊かな食の体験を積み重ね、楽しく食べることを通して、食への関心を育み、健康的な食生活を営む力の基礎を培う「食育」の充実をめざす。

(エ) 東北文教大学・東北文教大学短期大学部との連携による保育の充実

大学・短大の先生方による「課外教室」、ネイティブの英語教師による「英語遊び」、音楽発表会に向けた「楽器指導」等、専門的な指導により、子ども達の活動への意欲が

高まっている。今後は、教員が、大学・短大の先生による研修や、指導を受ける機会を増やし、質の高い保育に向けて学びの充実を図る。

(オ) 子ども一人一人のよさや個性を大事にした支援の充実

個別の支援を必要とする子どもの増加に伴い、一人一人のよさや個性を理解し育てる教育の一環として、特別支援教育コーディネーターを配置し計画的に支援を行う。

(カ) ホームクラス（預かり保育）の活動の充実

保育ニーズや社会の変化に対応して、子育て支援の一環として保護者の生活を支える役割を果たすために、教育活動としての多様な活動内容を計画して預かり保育を充実させていく。学生スタッフの活用や地域の人々の交流を楽しむ機会を取り入れる。

(キ) ICT化の定着による保護者との連携強化と業務改善

ICT 機器の活用・定着により、スピーディーでタイムリーな情報発信を行い保護者との連携強化を図ると共に、業務の効率化、業務負荷の軽減をめざす。

ウ 地域連携

・幼小の連携・交流を図るために、年長児クラスでは、近隣のみはらしの丘小学校と交流の機会を設けている。コロナ禍で、交流の回数は減ったが、今後は、子ども同士の交流だけでなく、教員同士の交流も行っていく。幼小の連携として、お互いの教育への理解を深め、子ども達が段差なく小学校生活に臨むことができるよう交流・連携を充実させていく。

・山形県立山形聾学校とは、30年以上前から交流を深めている。年に数回、耳の不自由なお子さんを迎えて一緒に活動することを続けている。この交流を通して、インクルーシブな教育を進めていく。

・ホームクラス（預かり保育）では、地域の詩吟愛好会の「吟道会」との交流が10年以上にわたって続いており、現在も子ども達は月に一回の「吟道会」の方の交流を楽しみにしている。今後は、他にも地域の様々な方と交流を通じた遊びや活動ができるよう検討していく。

エ 校間連携

(ア) 東北文教大学山形城北高等学校との連携

- ・保育者をめざす生徒の体験学習の場として保育の場を提供する。
- ・年一回、東北文教大学山形城北高校吹奏楽部による演奏会を開催し、本格的な吹奏楽の響きに耳を傾け、音楽の楽しさにふれる機会を取り入れる。

(イ) 東北文教大学・東北文教大学短期大学部との連携

- ・付属幼稚園として、大学・短大の保育者や小学校教諭をめざす学生について教育実習の場を提供する。質の高い教員養成のために役割を果たしていくために連携を密にしていく。
- ・大学・短大の専門の先生方による課外教室が大変好評である。好きな活動を選んで楽しむ

時間の充実を図る。

- ・ホームクラス（預かり保育）のアルバイトとして学生スタッフを採用し、実習以外でも子どもとふれられる機会を設け、学生スタッフの協力を得て預かり時間の充実を図る。
- ・ホームクラス（預かり保育）の活動として、大学の先生による ICT 教室や、学生による伝承遊び、人形劇、サッカー教室など多様な活動を実施し、子ども達の活動への意欲も高まっている。今後も大学、短大の協力を得て内容を充実させていく。

オ 園児募集・獲得

（ア）1歳から5歳までの乳幼児を対象に行っている地域提供事業「ちびっこひろば」を定期的に開催し、実施内容を更に充実させ、本園ならではの保育のよさをPRする。

・保護者のニーズの変化に伴い、子どもを園に預ける年齢が早まっており、2歳児の入園希望者が増えている。園体制を検討し2歳児の獲得に力を入れる。

（イ）大学、高校と連携して行う課外活動等は他園にはない魅力的な活動であり、保護者から評価を得ている。ホームページの動画等を通して、本園の魅力や特色ある教育を、定期的に内容を更新しながら発信する。

（4） 法人本部

ア 総合学園の強みを発揮した学校間連携の展開

東北文教大学、東北文教大学短期大学部、東北文教大学山形城北高等学校及び東北文教大学付属幼稚園のそれぞれが持つ教育資源を相互に活用して、交流事業や特別活動等を積極的に推進する。また、法人内での進学に対しては、入学金免除等の優遇策を設け、短期大学部から大学3年次への編入や、東北文教大学山形城北高等学校から東北文教大学又は短期大学部に安心して進学できる状況を整備し、総合学園としての一体性を確立する。

イ 学園の発展に欠かせない事務職員の育成

事務職員の各職位に求められる役割に的確に対応した人材育成を計画的に行うとともに、体系的な研修制度を構築する。事務職員のコンプライアンス意識の向上、専門的能力及び資質の向上を図るため、組織内における研修の充実と組織外の各種研修会への積極的な参加を図る。

職員の採用については、公募を原則とする。また、事務職員の人事異動については、各職員がその能力を十分に発揮することにより組織が活性化されるよう、適材・適所を原則とした人事配置を行う。

ウ DX時代に即した業務の推進

各校園や法人本部の運営と教育活動を効率的・合理的に行えるよう改善を進めるとともに、必要に応じて事務体制の見直しを行う。

また、事務や業務の効率化のために、法人内イントラネットの構築を検討するとともに、課題と

なっている会計システムの早期導入や、遠隔会議システムを活用した理事会・評議員会の開催を早急に実現する。

各校園と法人本部との連絡調整についても、ICTを活用して、簡素化・迅速化に取り組む。

6 経営に関する計画

(1) 業務運営の改善

ア 組織運営

(ア) 管理運営の在り方

理事会を中心としたガバナンスに基づき、大学の教育研究や高等学校及び附属幼稚園の教育の目標を達成し法人の健全経営を実現するため、意思疎通を十分に図り、法人内のコンセンサスの形成に努め、機能的な管理運営を目指す。

(イ) 組織及び定員の見直し

教育に対する社会的ニーズを的確に把握するとともに研究活動の進展を適正に評価し、各校園の望ましい在り方を検討し、時代を先取り、必要に応じて組織の再編等を行う。併せて、学生・生徒・園児の定員についても、長期的な展望を踏まえて、継続的に見直す。

(ウ) 業務の効率化・合理化

各校園及び法人本部の運営と、教育活動に必要な事務・業務を効率的・合理的に行えるよう改善を進めるとともに、必要に応じて組織体制の見直しを行う。

コロナウイルス感染症蔓延を契機に飛躍的に進んだ業務環境の変化に対応し、積極的にICTを活用した業務形態を導入する。また、今後も進行する少子化に対応するためには、業務の一層の効率化と合理化が求められるため、コンパクトな組織・人員体制の実現を目指す。

イ 安全衛生管理

(ア) 安全管理

各校園の校舎・校地管理を含め、防犯対策やセキュリティの保持に努める。特に、ICT関連機器利用の業務が多くなっている現状から、サイバーセキュリティの管理を確実にを行う。

(イ) 衛生管理

労働安全衛生法や労働基準法を遵守し、教職員や学生・生徒等に対する安全衛生の管理体制充実を努める。併せて、全教職員のメンタルヘルスを含む包括的な健康支援を実施する。

(2) 財務内容の改善

ア 財務基盤の安定

健全経営を維持するため、経常収支差額がプラスとなる予算を編成する。事業活動収入対策と

して、各校園の入学定員の確保による学生生徒等納付金収入の安定的な確保、寄付金収入や補助金の獲得などに取り組み、財務基盤の安定化を図る。

イ 外部資金の確保

経常費補助金の構成要素等を調査・分析し、補助金の確保と増額を目指す。また、教育研究環境を整備して科学研究費助成金や競争的資金の獲得を目指すとともに、受託研究や産学官連携研究等を推進し、外部資金を獲得する。

ウ 予算編成・執行の効率化

現下の財務状況に鑑み、継続した財務健全化の取り組みが求められることから、校園毎の収支均衡を目指した予算を編成することを基本とする。このため、支出予算は、各校園における収入額見合いを原則として編成し執行する。

教育研究経費及び管理経費は、特殊要因による追加予算を除いた前年度決算額を上限とし、事業はマイナスシーリングを前提とする事業計画により実施する。

必要となる事業は、すべて毎年度の事業計画で決定し、優先順位を考慮して予算の効率化を図る。各校園が将来のために戦略的に取り組む必要がある事業については、法人本部が所管する予算から機動的、効率的に予算を配分する。

エ 借入金

校舎及び大規模設備の整備は自己資金によることとし、短期及び長期の借入れは、当分の間、行わない。

7 キャンパス環境の整備に関する計画

(1) 東北文教大学・東北文教大学短期大学部

学生の学習環境整備として、空調設備の更新やバリアフリー化対策、及び大学施設内の蛍光灯をLEDに交換する対策工事を早急を実施する。自家用車で通学する学生が増加傾向にあるため、駐車場整備及び防犯対策上必要となっている出入口ゲート整備を計画する。財務上の条件が整えば、ピアノ練習棟など老朽化が進んでいる施設の建て替えも視野に入れて計画を進める。

(2) 東北文教大学山形城北高等学校

大規模な建物建設計画は無いため、当面は、学習環境整備のための空調設備の維持更新や給排水管の維持補修などの施設設備の長寿命化対策を実施する。校舎の一部でLED交換工事が終了していない箇所があるため、計画的に実施する。

(3) 東北文教大学付属幼稚園

本園の教育目標に沿って、園児が主体的・自発的に遊ぶことが出来る応答性のある環境整備を目標に、園庭改修工事を実施する。

特に、気候変動に対して、木陰で熱中症を心配することなくじっくりと遊びが展開できる環境を整備するため、植栽を中心にした園庭改修とする。

保育、教育環境の充実のために、園庭改修工事により緑化面積の確保を図るとともに、既設ウッドデッキの拡張工事を実施し、利用者満足度の向上と園児の獲得を目指す。

8 評価指標の設定

(1) 東北文教大学・東北文教大学短期大学部

志願者数については少子化に伴い今後減少していくことが見込まれる。しかし、広報体制の再構築、そして入試広報活動の着実な実施によって、人材育成および地域貢献への評価を高め、志願者数の減少を抑え、入学者数を確保していく。そのための評価指標として「志願者数」と「入学者数」を設定する。

どこよりもあたたかい教育の実現を通して、学生一人ひとりの目標を達成することで、退学率を抑え、安定した就職率を実現していく。そのための評価指標として、「退学率」と「就職率」を設定する。

(2) 東北文教大学山形城北高等学校

志願者動向ならびに生徒募集、広報活動の成果測定の観点から、「志願者数」「入学者数」を評価指標として設定する。また、進学で県外へ流失する本校生の動向を把握し、県内の大学等への進学率を上げるための評価指標として、「県内大学等への進学率」を設定する。

(3) 東北文教大学付属幼稚園

志願者数については少子化に伴い年々減少傾向にある。

しかしながら、幼稚園として適切な園児の集団での関りを考慮し、1年次複数制を維持するために志願者の確保を行う。そのための評価指標として「志願者数」を設定する。

少子化に加え、未満児から保育施設へ預ける保護者が増加しており、本園でも令和6年度より2歳児保育を始めた。3歳児からの入園児が減少傾向にある中、2歳児からの入園児を確保することにより、各年次均衡した園児確保を行う。そのための評価指標として、「年齢別入園児童数」を設定する。

校園間連携については、これまでの短期大学との定例の連携行事の他に、学生サークル等の日常の連携行事を実施する。また、高校の吹奏学部の発表会や、保育参加など部活や授業での活動に積極的に協業を行う。そのための評価指標として、「校園間連携回数」を設定する。

(4) 学校法人富澤学園

学校法人の経営状況を客観的に把握するため、資金管理の観点から資金収支計算書の「資金収支差額」及び組織の持続性を観る観点から事業活動収支計算書の「経常収支差額」を評価指標とする。これら指標の重要な要素である人件費についても、「人件費比率」として併せて指標に設定する。

別紙

1 各校園の評価指標（学生・生徒・園児数、その他）	資	—	1
2 財務評価指標	資	—	2
3 人事計画（所属別教職員配置計画）	資	—	3
4 施設設備整備計画	資	—	4